第42回 内科学の展望

1 2 3 4 5

まとめ

中西 洋一

Key words EML4-ALK, PD-1, バイオマーカー, 病診連携, 患者支援活動

国民のがん死亡は1950年から2013年までの63年間に5.7倍に増えた¹⁾。今や、国民の半数が生涯に一度はがんに罹患し、3分の1ががんで死亡する時代である。疾病構造の変化の中で内科診療の在り方もこれに対応する必要がある。そこで、内科学の展望「がん死亡急増時代の内科診療を考える」のプログラムは、1) 臨床へつながる基礎研究の展開、2) がんの臨床の現状、3) がんのケアという3部構成とした。

1つ目のセッション「がんの基礎研究がもたらしたもの」では、がんの疫学の現状に加えて、法制化された全国がん登録の概要とその意義を祖父江教授よりご講演いただいた。がん登録の医学的、社会的意義が改めて確認された。間野教授と岩井教授からは、我が国が世界に誇る研究成果の一端をご紹介いただいた。間野グループによるdriver oncogene, EML4-ALKの発見²⁾に続いてその阻害薬が開発³⁾され、驚異的な治療成績を発揮するとともに治療ガイドラインを書き換えた。本庶教授、岩井教授らによるPD-1/

PD-L1の発見⁴⁾とがん免疫における役割の解明⁵⁾、そして阻害薬のnivolumabの開発⁶⁾は、今後のがん治療を大幅に書き換えるものと世界中からの熱い視線を集めている。

2つ目のセッション「がんの診断と治療はここまで進んだ」においては、画像診断の現状と今後の展開を坂井教授より、内視鏡診断とインターベンションを江崎先生よりご講演いただいた。我が国がもっとも得意とする領域であり、その発展には目を見張るものがある。中川教授からはがん薬物療法と個別化医療に関してご講演いただいた。がんが遺伝子異常によって生じる病気であり、遺伝子レベルでがんの性格を知ることができる時代となった。これが進境著しい薬物療法の発展につながっている。一方で、新しい画期的医療も臨床試験なくして国民に届けることはできない。中川教授からの臨床試験の科学性と臨床的意義に関する熱いメッセージが広く浸透することを祈りたい。

最後のセッション「がんのケアを考える」は

九州大学大学院胸部疾患研究施設

The 42nd Scientific Meeting: Perspectives of Internal Medicine: Considerations to treatment and care of cancer by internists in the era of increasing cancer mortality; 5. Conclusion.

Yoichi Nakanishi: Research Institute for Diseases of the Chest, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, Japan.

これからのがん医療を考えるうえで、我々一人ひとりが理解し、実践すべき項目を取り上げた。境先生はいち早くがんの病診連携を取り上げ、素晴らしい体制を構築してこられた。今、多くのがん拠点病院などがこれを学び、展開している。有賀教授には緩和医療の最新情報をご講演いただいた。緩和医療が新しいがん治療の柱として定着しつつある。早期からの緩和医療で生命予後が延長するという研究成果も驚きである。最後に、患者支援活動の今を川上さんと秋山さんからご紹介いただいた。がん罹患とがん死亡が増加した今、この問題を医療者側のみ委ねることは無理である。社会としての取り

組みはがんと戦う新しいムーブメントとして、生きる意味や希望を提供し始めた。その先陣を切って活動する両人の講演は新鮮かつ感動的であった。

今回の講演会を通じて、がんを取り巻く環境、状況の変化を感じ取り、内科医がその中心、あるいは少なくともその一端を担いつつ、社会をあげての対応に取り組む姿勢が醸成されるとしたら大きな喜びである。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：中西洋一；講演料（ファイザー）

文献

- 1) 総務省統計局：人口動態調査 人口動態統計 表番号5-15 性・年齢別にみた死因年次推移分類別死亡数及び率（人口10万対）。
- 2) Soda M, et al : Identification of the transforming *EML4-ALK* fusion gene in non-small-cell lung cancer. *Nature* 448 : 561-566, 2007.
- 3) Kwak EL, et al : Anaplastic lymphoma kinase inhibition in non-small-cell lung cancer. *N Engl J Med* 363 : 1693-1703, 2010.
- 4) Ishida Y, et al : Induced expression of PD-1, a novel member of the immunoglobulin gene superfamily, upon programmed cell death. *EMBO J* 11 : 3887-3895, 1992.
- 5) Iwai Y, et al : Involvement of PD-L1 on tumor cells in the escape from host immune system and tumor immunotherapy by PD-L1 blockade. *Proc Natl Acad Sci U S A* 99 : 12293-12297, 2002.
- 6) Topalian SL, et al : Safety, activity, and immune correlates of anti-PD-1 antibody in cancer. *N Engl J Med* 366 : 2443-2454, 2012.